

作成日	2021年8月25日
学科・専攻名	教育学科 養護・福祉教育 学専攻

教育課程・学習成果の検証

1. 学科・専攻の「開講科目数（必修・選択必修・その他）」「非常勤講師比率」「学生の入学から卒業までの平均受講科目数」等のデータを参考に、学生の受講科目数に対して開講科目数は適切か、非常勤講師比率は適切か、学生にとって体系的な科目編成となっているか等を検証

【検証結果（全体概要）】

養護・福祉教育学専攻は2019年に開始し、初年度12科目、2年目41科目と順次開講が進んでいる。非常勤講師比率では2020年度において約50%となっており、専任教員による教育の割合の高い体制がとられている。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

2. 「卒業時アンケート」「PROG（ジェネリックスキルテスト）結果」「学修行動比較調査」「進路・就職状況」「免許・資格取得状況」「休学・退学・留年数」「授業アンケート結果」等のデータを参考に、学科・専攻の教育について、効果が挙げられている点、改善すべき点を検証

【検証結果（全体概要）】

本専攻では未だ完成年度に至らないため、卒業生は無い。種々調査について本専攻単独で結果の読み取れるものが作成されているものが少ないため、家政学部生活福祉学科に関する調査結果から傾向を把握するに留まる。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

3. 学科・専攻として、教育の質向上・改善に向けた組織的な取り組み（FD）をおこなっているか。おこなっている場合、それはどのような内容か、どのような課題認識に基づくものか。

【検証結果（全体概要）】

後期授業アンケートでは、全体的には「大学平均」と同程度であったが、やや下回るものも見られた。前期後期とも新型コロナウイルス感染予防のためにとられた遠隔授業への対応が不十分であったことが推察された。昨年度から見られる学習時間が短い点に関しては、昨年度からの比較では改善がみられるものの、まだ大学平均より低いことから、授業時間外の学習への取り組みの指導を専攻全体として取り組む必要があると考えられた。詳細で見ると、出席状況は大学平均と変わらなかったが、「学習時間」は-0.3ポイント、「理解度を見ながら進める」は-0.2ポイント、「資料やテキストの適切さ」は-0.3ポイント、「フィードバック」は-0.2ポイントと大学平均より低かったが、「学習時間」は昨年度よりも+0.2ポイント増加していた。対面授業が適しているが+0.2ポイント大学平均よりも高く、養護福祉の専門科目の多くは遠隔授業では実施しがたく、フィードバックも行いにくいことが問題点と考えられ、今後対面授業の再開とともに改善していくと予想される。遠隔授業での不慣れな点については、専攻内でのFD研修会などを実施しており、今年度6月にも「ICT活用セミナー」を実施した。学生の学習時間を増加させる方策については、専攻教員全体で検討することを考えている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし。

4. 教員組織の編成（採用・昇任等）にあたって、職位構成および年齢構成のバランスに配慮した編成をおこなっているか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。

【検証結果（全体概要）】

本学科は改組進行中で教員の所属が2学部にまたがる教育体制となっている。しかし、教員の必要人数は満たしており、カリキュラムに基づいた各専門分野の教員が置かれており、年齢は40代～60代の幅広い構成となっている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特記すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特記すべき事項なし